会 議 録

<開催日>平成 20 年 8 月 11 日 (月)

<時 間>10 : 00~12 : 15

<場 所>市役所新館 4 階第 2 委員会室

<名 称>平成 20 年度 第 2 回岸和田市協働のまちづくり推進委員会

<出席者> ○は出席、■は欠席

松端	望月	室田	米川	深野	中野	稲富	中川	和田	上野	泉原	西川	谷川	荻野	白木	大多
○	○	○	○	○	■	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○

事務局) 西川企画課長、梶野主幹、松阪、陣川

<議 題>

- 1、市民活動支援に向けた新たな制度について
 - (仮) 岸和田市協働のまちづくり市民活動支援制度
 - 市民活動サポートセンター
- 2、その他

<概 要>

1、 市民活動支援に向けた新たな制度について

<背景①：岸和田市自治基本条例の建議について>：(資料 I) 事務局より説明

- 「岸和田市自治基本条例」が平成 17 年 8 月に施行されたが、同条例の基本理念を推進し、実効性を確保するための制度の検討、制度の見直し等について調査審議する機関として「岸和田市自治基本条例推進委員会」が設置された。
- 推進委員会で 2 年間にわたり、その検証を行ってきたが、その結果を 6 月に建議として岸和田市長に提出した。
- 協働の取組みについても記述されている(5 頁)が、その中で『市民活動団体への支援金に関する制度や協働事業提案制度の創設、また市民活動サポートセンターの設置等、岸和田市の実情にあったシステムを実現するように検討すべきである』となっている。

<背景②：補助金等及び市民活動団体事務局の在り方検討委員会(以下「補助金検討委員会」という)の取組みについて>松端会長(補助金検討委員会座長)より説明

- 「きしわだ行財政再生プラン」に基づき、補助金検討委員会が設置され、現在、岸和田市が支出している各種事業、団体への補助金の見直し作業を行っている。
- 岸和田市が独自で支出している補助金について、適正性、公益性、効率性等を基礎に検討している。
- その議論の中で、補助金の在り方について自主的な運営補助、事業補助を支援することが必要ではないかとの意見もあった。またこれまでの一律的、継続的な配分ではなく、周期を決めて決定していくべきとの意見もあった。

【質疑応答(要点筆記)】

委 員：大阪府の「財政再建プログラム」において、福祉に関する予算をカットすると言っていたが、最終的には削減されていなかった。各市町の意見をまとめる機会があったが、その中でも「予算をカットすれば、活動は必ず低下する」との意見があった。

会 長：補助金検討委員会は、補助金のカットが前提ではなく、適正な額が適正に執行されているかを検証しており、その観点から補助金の在り方を検討している。今秋に最終報告という形で市に提出し、それを受けて市の方で最終的に判断していく方向になる。

委員：総合計画と自治基本条例の関係は如何。

事務局：自治基本条例が市の最高法規と位置付けられており、総合計画もその中に含まれている。
条例第24条に総合計画に関する記述もあるが、その中で「条例の理念にのっとり、総合計画を策定しなければならない」となっている。

会長：こういった背景を受けて、新たな支援金制度を検討する必要があるという点で、本日の議論を進めていきたい。

＜（仮）岸和田市協働のまちづくり市民活動支援制度の考え方＞：（資料Ⅱ）事務局より説明

- そういった中で、事業のスクラップ（廃止）だけでなく、ビルド（創造）の観点から、新たな補助金制度の創設を検討したい。
- 現時点ではあくまで大枠の考え方・方向性・ポイントを示している。詳細については、本委員会で議論しながら、検討していきたいと考えている。
- 参考に大和市（神奈川県）、尼崎市（兵庫県）を紹介。

[大和市の特徴]：市民活動推進補助金

- ・ 「めばえ（活動初期型）」と「はぐくみ（活動発展型）」の2種類
- ・ 無償のボランティア労力等も金額計算し、補助対象としている。

[尼崎市の特徴]：あまがさきチャレンジまちづくり事業

- ・ 「地域コミュニティ活動支援事業（1地区対象）」と「ステップアップ事業（複数地区、全市対象）」の2種類
- ・ ステップアップ事業の募集を前年度内に行っている。⇒市民団体にとっては、次年度の活動に直ぐに補助金を使うことが出来る。
- その他の課題として、制度発足してから徐々に申請件数が減っている現状がある。件数を増やす取組みも別途必要になってくる。

【グループワーク（3班）】

- テーマ：「（仮）岸和田市協働のまちづくり市民活動支援制度」について
 - ・ 考え方、方向性はどうか
 - ・ どういった制度であれば利用しやすいか（対象、金額、申込方法など）
- 出された意見・メンバーは以下のとおり

	A班：室田、和田、泉原、大多	B班：白木、稲富、米川、上野	C班：望月、深野西川、中川、荻野
考え方・方向性について	<ul style="list-style-type: none">・ 公益性、透明性の確保が大事・ 新しい団体（まちづくり、市民団体）などコツコツ真面目にやっている団体にはチャンス	<ul style="list-style-type: none">・ 事業提案方式は必要	<ul style="list-style-type: none">・ 持続性
支援の対象	<ul style="list-style-type: none">・ 自立の観点から、事業費（目に見える補助金）・ 初期対象、発展対象に分けるのはなぜ？	<ul style="list-style-type: none">・ 初期活動は全て補助する（活動を活発にするにはそういったことも必要）・ 活動発展は精査が	<ul style="list-style-type: none">・ 単年度補助はどうだろう？・ 単発の事業でも申請可能に・ 団体の概念をどうするか（2名以上

		要る	ならOK)
支援の金額	<ul style="list-style-type: none"> 半額補助はあっても良い 団体の自立は必要 		<ul style="list-style-type: none"> 項目によって支援額を決定
公開性・透明性	<ul style="list-style-type: none"> 公募市民を入れて事業決定すべき 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 制度発足にあたり、市民団体への説明会（申請書の書き方等）は必要 市民と行政の対等性、目線が同じ⇒基本スタンス 	<ul style="list-style-type: none"> “事業”ではなく“活動”とした方が馴染みやすい。⇒大和市はわかりやすいし、馴染みやすい（「めばえ」と「はぐくみ」） 	<ul style="list-style-type: none"> 協働の考え方の整理が必要 団体の事務局をどう扱うか

【意見交換（要点筆記）】

会 長：先程のグループワークで様々な意見が出てきたが、まとめると次の点である。

- ① 団体の運営ではなく、事業そのものを補助する。
- ② 団体の性格をどうするか（2名以上ならば、団体として扱う）。
- ③ 支援額、支援の中身をどうするか（一部補助、内容によって全額、立上げは全額）。
- ④ 期間をどうするか（単年度補助とするか、数年見るか）。
- ⑤ 単発型、イベント型の補助制度はどうか
- ⑥ 事務局の問題（行政内部に事務局がある団体とない団体の扱い方）
- ⑦ 審査委員会等の公開性

またこのような制度を考えていく上で、重要なポイントは以下の点ではないか。

- 制度自体の使い勝手はどうか。制度が市民団体にとって利用しやすいか。
- 手間ひまと実際の支援額とのバランス（手間をかけた割りに、支援額が少ない）
- 申請時期の問題（その点で言えば尼崎方式は非常に良い）
- メリット感をどうつけるか（申込件数を増やす取組みの一つにつながる）

委 員： “事業” と “活動” を分けるという意見があったが、非常に難しいのではないか。“事業”を行うこと自体が、その団体の “活動” になっていることもある。

会 長： その点については、両者の区分けは難しい。市民にとっては “事業” と聞くと非常に大きく捉えてしまうので、そういった捉えられ方のないように配慮する必要がある。

事 務 局： 一つの提案だが、本日の議論だけでは十分に議論されない点多々あるので、推進委員会とは別に、ワーキング会議を設置し、支援制度について議論したいと考えている。もしご協力いただける委員の方がいましたら、事務局までご連絡いただきたい。ワーキング会議については、核となるメンバーを何人か決めて、その他委員も自由に参加できるスタイルを採り、オープンな形での議論を進めていきたい。出来れば次回委員会には、議論の内容を報告し、やりとりしながら制度を検討したい。

会 長： 本日のグループワークでは様々な意見が出された。そういった意見等も踏まえた上で、ワーキング会議で検討いただきたい。

⇒ワーキング会議メンバーは中川委員、稲富委員、米川委員、上野委員、荻野委員、白木委員

<市民活動サポートセンター>：(資料Ⅲ)事務局より説明

- サポートセンターについて、以前から様々な提言を受けているところである。
- 岸和田市においても、サポートセンターの設置について推進委員会で、今後(次回以降)検討していく予定である。
- それまで、他市のセンター機能、運営方法など情報を集めておいていただきたい。

【意見交換(要点筆記)】

会 長：サポートセンターについては、府内においても開設している自治体もある。どういった機能が必要であるかといった中身の議論もあるが、その施設の運営方法についても議論が必要である。ボランティアセンターとの関係(例えばボランティアセンターの機能拡充など)、別に開設するなど、自治体によってまちまちである。

2、 その他

- 情報提供

[蛸地蔵商店街投票率UP大作戦について]：泉原委員より提案

- ・ 以前に蛸地蔵商店街で投票率UP大作戦を行ったが、この運動を岸和田市全体に広げたいと考えている。
- ・ そのサービスの一環として、行政サービスの提供(住民票の割引等)が出来ないかどうか。

[その他]

- ・ 心芽のリーフレット：荻野委員
- ・ マイカル環境レポート2007：西川委員
- ・ 体協きしわだ：室田委員
- ・ 女性かいぎ：中川委員
- ・ にゅーとぴあ岸和田(岸和田市国際親善協会だより)：米川委員
- ・ ボランティアサロン、団塊世代のための交流会、ボランティアだより：稲富委員

- 次回以降の日程

11月10日(月) 9:30~12:00(最大12:30)

2月9日(月) 9:30~12:00(最大12:30)

※ 開催場所は未定(事前に案内します)